

地域医療への思い 腰痛サポートダイヤル への思い その②

（前号より）近年の社会状況では、核家族化が急速に進んでおり、老夫婦での生活環境にある例が圧倒的に多いことから老々介護にならざるを得ないのです。このような中、脊椎圧迫骨折患者の多くが行き場のない“難民”となって苦しい日々を送っておられるのが実態のようです。

そこで、当院では、これらの難民を掘り起こして救済すべく「腰痛サポートダイヤル」と称する、地域連携室への直通電話を設置して情報を収集するシステムを構築致しました。この情報を高度急性期病院の救急診療部だけでなく、整形外科医院やケアマネジャーの方々にも周知すべく広報致しております。

この情報を得ました地域連携部は、医療機関からの場合には、担当の医師から診療情報の提供を受け、ケアマネジャーからの場合は、当院の整形外科外来を通して入院へと進めます。入院の判断は、当院の院長／副院長が即刻判断します。なお、この「腰痛サポートダイヤル」の特徴ですが、当院では写真にありますように、専用の送迎車両を準備し、車椅子やストレッチャーで収容できる体制で、看護師を加えた2～3名の職員がお迎えに参ります。その送迎車両が出払っている場合には介護タクシーを手配いたします。

高齢者は安静臥床するだけで、1日あたり約～3%、1週間で10～15%の割合で筋力低下が起こり、3～5週間で約50%に低下すると報告されているように急

速に廃用が進みます。したがって、疼痛が強い急性期でもしっかりと体幹を固定できるダーメンコルセットをできるだけ早くに作成して、筋力を落とさないようにリハビリを開始しなくてはなりません。しかし、コルセットは個々の患者で採寸してオーダーメイドで作成しますので、出来上がるまで3日～1週間かかります。その期間を無駄に過ごさせないように、当院では複数のサイズのダーメンコルセットを外来に準備しておいて、入院時にそのコルセットを個人のものできるまで代用することで筋力維持のためのリハビリを直ちに開始できるようにしています。

この取り組みを昨年9月に開始して、今年5月末時点で120名からコールがあり、そのうち79名が入院治療致しました。ただし、病床転換のために一時病棟閉鎖をせざるを得ない時期があつて、残念ながら入院をお断りしたことが実績に悪影響しています。

このように、当院は、今後もこの地域のニーズに迅速に的確に合わせた医療を提供してゆく活動を継続して参ります。

院長 高橋 伯夫

腰痛サポートダイヤル
090-2382-8432
受付時間9:00～15:30
（月曜日～金曜日、除く祝祭日）

腰痛サポートカー
病院外来・診療所からの
直接依頼に対応します
遠方の場合は・・・
介護タクシーを手配します

時間外対応については翌日患者宅へ電話対応
詳しくは地域連携部にお問い合わせ下さい

077-526-2144

